

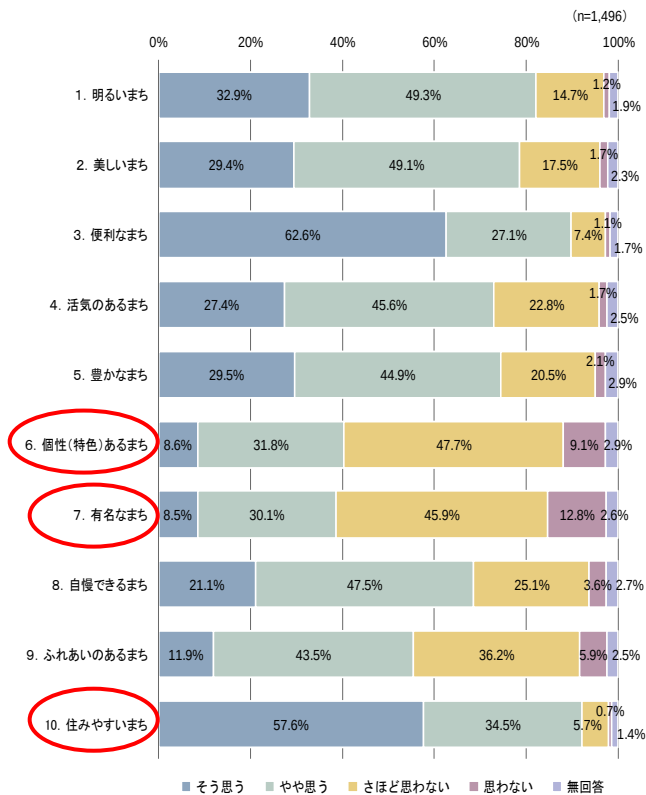
	調査対象	回収数（率）
市民	満 20 歳以上の市民 3,500 名	1,496 件（42.7%）
出身者	野々市会の会員 66 名	33 件（50.0%）
職員	市職員 263 名	256 件（97.3%）

※調査時期は令和 2 年 2 月 4 日（火）～ 3 月 11 日（水）

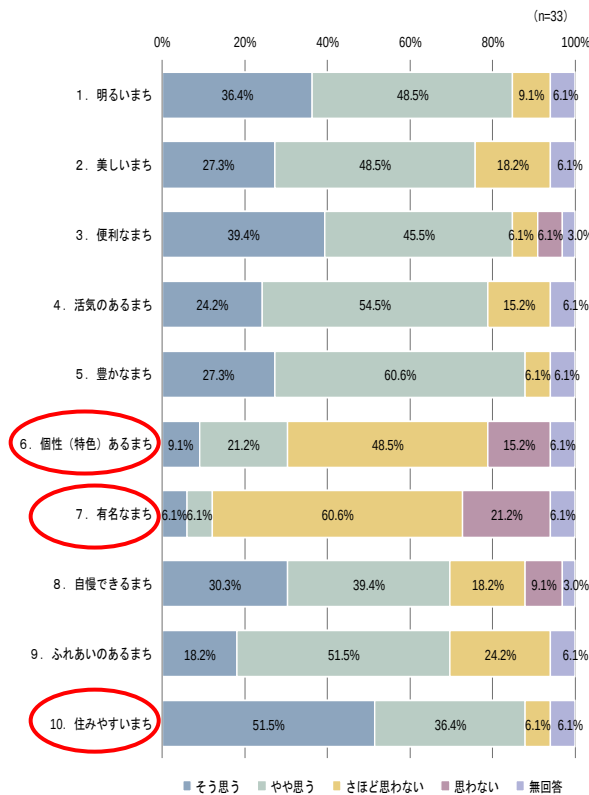
※市職員には、保育園、育休中職員、他の機構への派遣職員等は含まない。

- ・ 野々市市の印象として、「10. 住みやすいまち」であると感じている人は、市民・職員で 9 割を超え、出身者でも 8 割を超えている。
- ・ 「7. 有名なまち」「6. 個性あるまち」でないと感じている人は、市民で 5 割以上、出身者・職員で 6 割以上となっており、まちの知名度の向上や特色の発揮に課題があることがうかがえる。

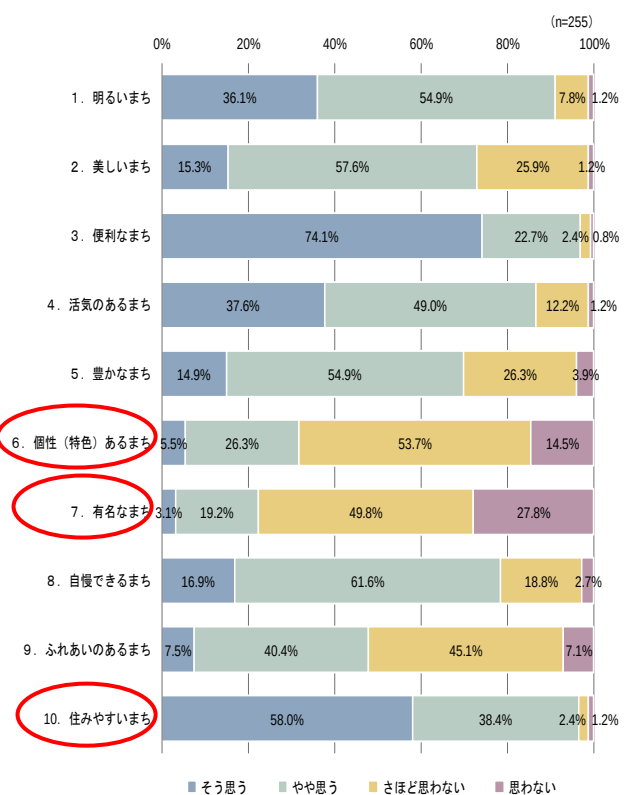
【市民】



【出身者】



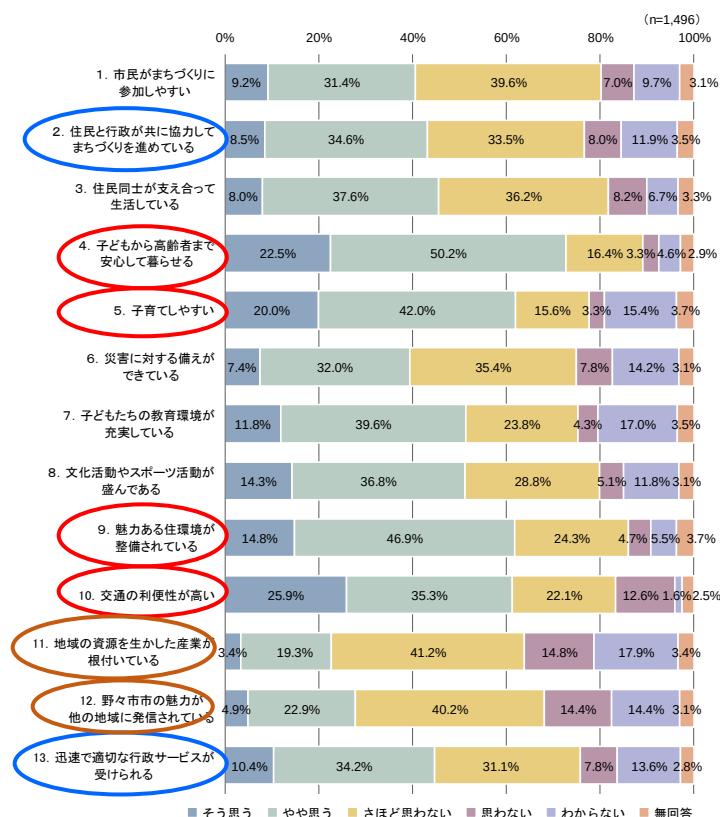
【職員】



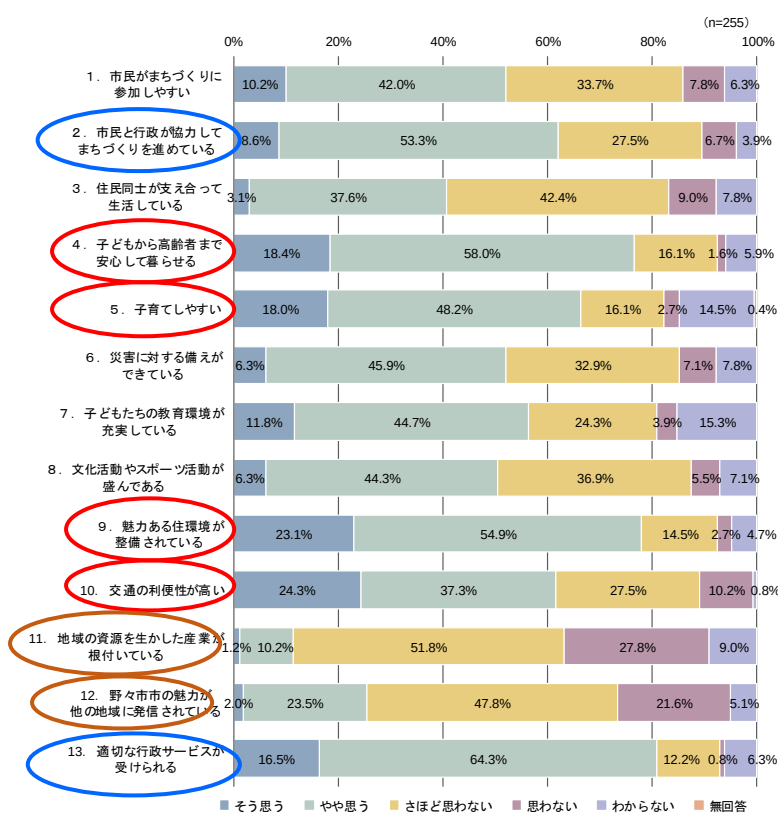
■暮らしの印象

- ・ 野々市市の暮らしについての印象として、「4. 子どもから高齢者まで安心して暮らせる」「5. 子育てしやすい」「9. 魅力ある住環境が整備されている」「10. 交通の利便性が高い」と感じている人は、市民・職員ともに6割を超えており、おおむね暮らししやすいまちだと感じている人が多い。
- ・ 「2. 市民と行政が協力してまちづくりを進めている」「13. 適切な行政サービスが受けられる」と感じている人は、市民では5割以下となっているが、職員では6割を超えており、市民協働のまちづくりや行政サービスの印象には市民と職員で捉え方に差があることがうかがえる。
- ・ 一方で、「11. 地域の資源を生かした産業が根付いている」「12. 野々市市の魅力が他の地域に発信されている」と感じている人は市民・職員ともに3割以下となっており、上述の通り、まちの知名度の向上や特色の発揮に課題があることがうかがえる。

【市民】



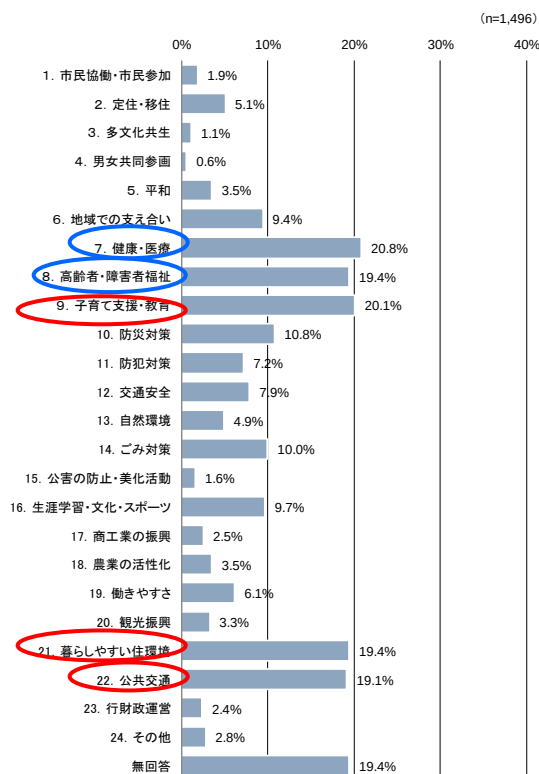
【職員】



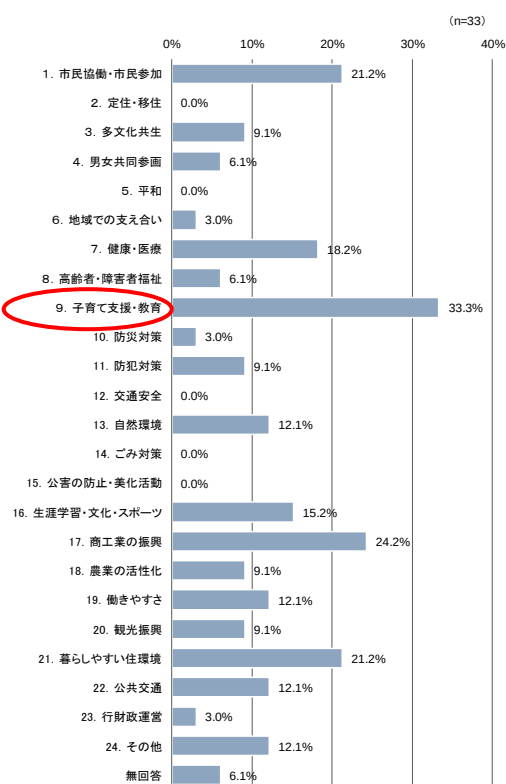
■10年後の理想のまち

- ・ 10年後の理想のまちを実現するためのキーワードとしては、「9. 子育て支援・教育」と子育てに関する取り組みについて、市民・出身者・職員すべてで回答割合が高くなっている。また、「21. 暮らしやすい住環境」「22. 公共交通」と生活環境に関する取り組みについても、市民・職員で回答割合が他と比べて高くなっている。
- ・ 市民では「7. 健康・医療」「8. 高齢者・障害者福祉」と福祉分野の取り組みについて回答の割合が特に高いが、職員では他と比べて特段割合は高くはない。一方で、職員では「6. 地域での支え合い」と地域コミュニティに関する取り組みの回答割合が高くなっているが、市民では他と比べて割合は高くはない。

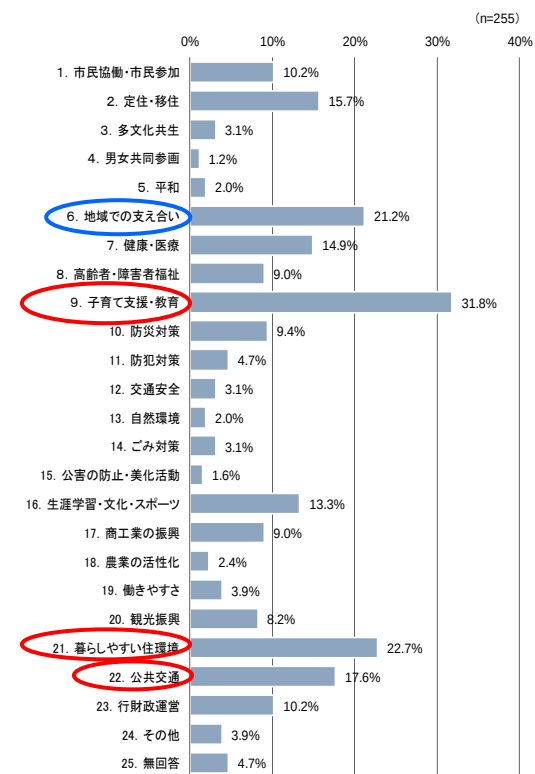
【市民】



【出身者】



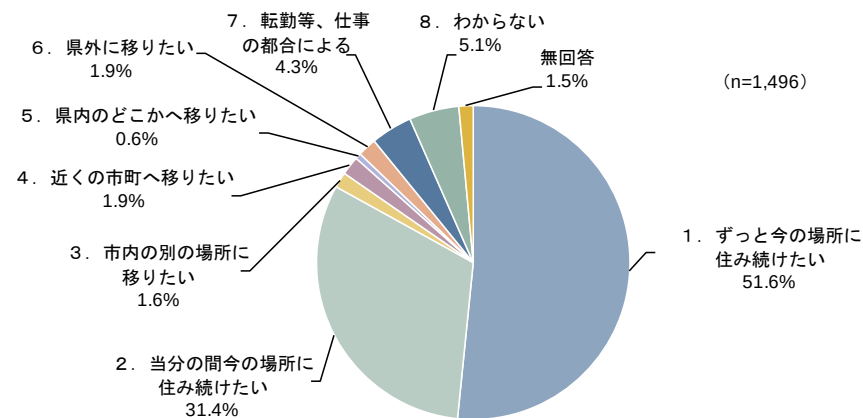
【職員】



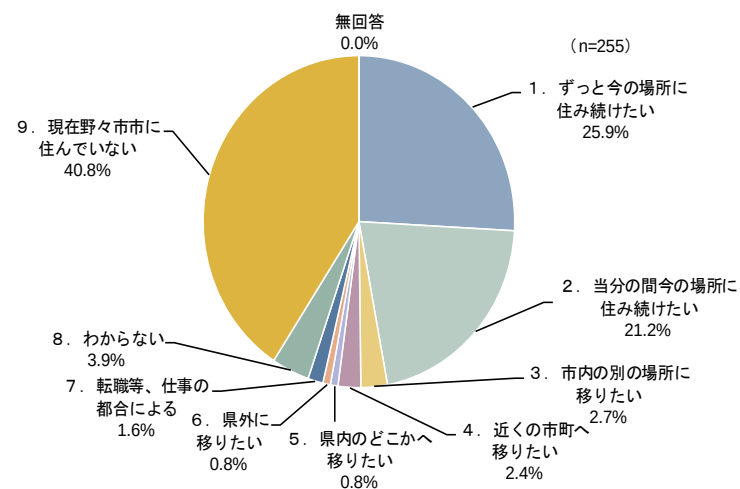
■今後の居住意向

- 市民のうち、市内への継続した居住意向のある人の割合は8割以上となっている。現在野々市市に住んでいる職員のうちで市内への継続した居住意向のある人の割合も8割以上となっており、市内への居住意向が高いことがうかがえる。

【市民】



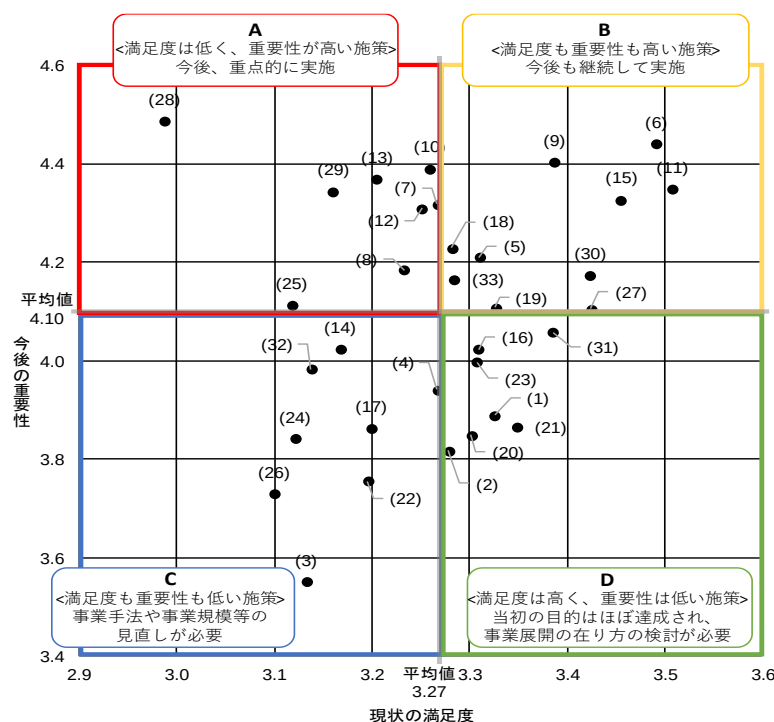
【職員】



■施策の評価

【市民】

- 現状の施策では、「6. 健康づくりの推進」「15. 環境負荷の少ない社会の構築」「11. 消防と救急体制の充実」について、満足との回答割合が4割を超えており、評価が高い。また、これらは重要であるとの回答割合も高くなっており、今後も継続して取り組んでいくことが市民から求められている項目と言える。【B】
- その他、「7. 高齢者福祉の推進」「8. 障害のある方の福祉の推進」「25. 勤労者福祉の充実」など、10年後の理想のまちのキーワードとしても挙げられた福祉分野の取り組みや、「10. 防災対策の充実」「12. 交通安全対策の推進」「13. 防犯対策の強化」「29. 雨水排水対策の充実」と安全なまちづくりに関する分野は、満足度は低く、重要性は高くなっており、今後重点的に取り組んでいくことが市民から求められている項目と言える。【A】



A 今後、重点的に実施する施策	
7	高齢者福祉の推進
8	障害のある方の福祉の推進
10	防災対策の充実
12	交通安全対策の強化
13	防犯対策の強化
25	勤労者福祉の充実
28	交通の円滑化と公共交通網の充実
29	雨水排水対策の充実

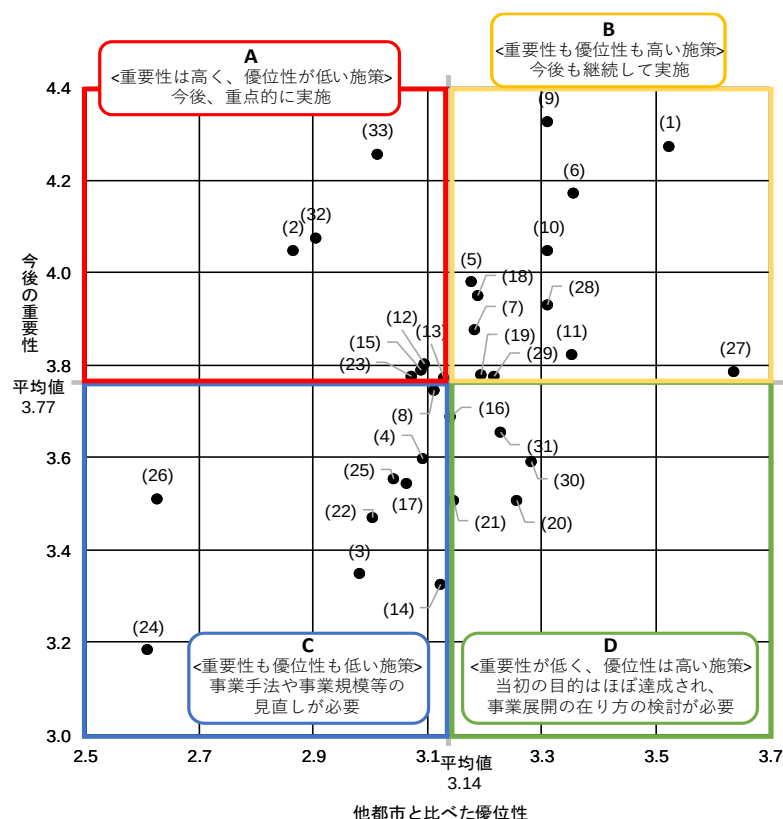
C 事業手法や事業規模等の見直しが必要な施策	
3	多文化共生と国際・国内交流の充実
4	思いやりのまちづくり
14	消費者の利益の保護
17	環境保全のために行動するひとづくり
22	文化の継承と創造と担い手の育成
24	農業の活性化
26	観光資源の発掘
32	人材育成の推進

B 今後も継続して実施する施策	
5	地域福祉社会の創造
6	健康づくりの推進
9	子育て支援の推進
11	消防と救急体制の充実
15	環境負荷の少ない社会の構築
18	知・徳・体のバランスが取れた教育の充実
19	家庭、地域、学校の連携強化と開かれた学校づくり
27	魅力ある街並み形成と住環境整備
30	循環する水資源の適正利用
33	安定した行財政運営の推進

D 事業展開の在り方の検討が必要な施策	
1	市民協働のまちづくり
2	ふるさと意識の醸成と愛着心の向上
16	生活環境の保全
20	生涯学習社会の充実
21	文化・スポーツ活動の充実
23	商工業の活性化
31	開かれた市政の推進

【職員】

- 現状の施策のうち、「27. 魅力ある街並み形成と住環境整備」「1. 市民協働のまちづくり」について、4割以上の職員が近隣の他都市と比べて「優位性がある」と感じている。その中で、「1. 市民協働のまちづくり」については、重要であるとの回答割合が8割を超えており、今後も継続して力を入れていく取組と職員が感じている施策と言える。また、「9. 子育て支援の推進」について「優位性がある」と感じている職員の割合は3割を超え、また重要であるとの回答割合も最も高くなっており、この施策についても今後も継続して力を入れていく取組と職員が感じている施策と言える。【B】
- その他、「12. 交通安全対策の強化」、「13. 防犯対策の強化」、「15. 環境負荷の少ない社会の構築」、「23. 商工業の活性化」、「32. 人材育成の推進」、「33. 安定した行財政運営の推進」と、防災・防犯・交通安全などの安全なまちづくりに関する分野や、人材育成・行財政運営など行政経営に関する分野について、優位性は低く、重要性は高くなっており、今後重点的に取り組んでいく必要があると職員が感じている施策と言える。【A】



A 今後、重点的に実施する施策	
2	ふるさと意識の醸成と愛着心の向上
12	交通安全対策の強化
13	防犯対策の強化
15	環境負荷の少ない社会の構築
23	商工業の活性化
32	人材育成の推進
33	安定した行財政運営の推進

B 今後も継続して実施する施策	
1	市民協働のまちづくりの推進
5	地域福祉社会の創造
6	健康づくりの推進
7	高齢者福祉の推進
9	子育て支援の推進
10	防災対策の充実
11	消防と救急体制の充実
18	知・徳・体のバランスが取れた教育の充実
19	家庭、地域、学校の連携強化と開かれた学校づくり
27	魅力ある街並み形成と住環境整備
28	交通の円滑化と公共交通網の充実
29	雨水排水対策の充実

C 事業手法や事業規模等の見直しが必要な施策	
3	多文化共生と国際・国内交流の充実
4	思いやりのまちづくり
8	障害のある方の福祉の推進
14	消費者の利益の保護
17	環境保全のために行動するひとづくり
22	文化の継承と創造と担い手の育成
24	農業の活性化
25	勤労者福祉の充実
26	観光資源の発掘

D 事業展開の在り方の検討が必要な施策	
16	生活環境の保全
20	生涯学習社会の充実
21	文化・スポーツ活動の充実
30	循環する水資源の適正利用
31	開かれた市政の推進

【市民と職員の評価の相違】

- ・ 満足度/優位性と重要度の2軸からみた市民・職員の施策の評価については、同じ象限（A～D）に位置付けられる施策とそうでない施策がある。
- ・ 「高齢者福祉の推進」ほか3施策は、重要性についての評価は共通しているものの、満足度/優位性の評価が異なっており、職員は優位性を感じているが、市民の満足度は低い。この評価の差異については、市の努力が市民に伝わっていない可能性や、市の努力の方向性が市民のニーズに沿っていない可能性などが考えられる。
- ・ 一方で、「市民協働のまちづくり」のように、市民は満足し、重要性も感じていないが、職員は重要だと感じている施策もある。評価の位置づけが異なる施策は合計13施策ある。評価の位置づけが異なる施策については、評価のズレの性質を踏まえながら、施策の方向性を検討していく必要がある。
- ・ 市民と職員の評価の位置づけが同じ施策は20ある。これらの項目については、重点化したり、あり方を見直したりする上で、市民と職員との間に意識のギャップが小さいため、理解が得られやすいと考えられる。ただし、実際の方向性の設定に当たっては、社会潮流や市の現状を踏まえ慎重に検討する必要がある。

＜市民と職員で評価の位置づけが異なる施策＞

施策	市民	職員	分類
高齢者福祉の推進	A	B	職員は優位性を感じているが、市民の満足度は低い
防災対策の充実	A	B	
交通の円滑化と公共交通網の充実	A	B	
雨水排水対策の充実	A	B	
障がいのある方の福祉の推進	A	C	市民は重要性を感じているが、職員の優先度は低い
勤労者福祉の充実	A	C	
循環する水資源の適正利用	B	D	
環境負荷の少ない社会の構築	B	A	市民の満足度は高いが、職員は優位性を感じていない
安定した行財政運営の推進	B	A	
人材育成の推進	C	A	職員は重要性を感じているが、市民の優先度は低い
ふるさと意識の醸成と愛着心の向上	D	A	市民は満足し、重要性も感じていないが、職員は優位性を感じず、重要だと感じている
商工業の活性化	D	A	
市民協働のまちづくり	D	B	市民は満足し、重要性も感じていないが、職員は重要だと感じている

＜市民と職員の評価の位置づけが同じ施策＞

施策	市民	職員	分類
交通安全対策の強化	A	A	今後、重点的に実施する施策
防犯対策の強化	A	A	
地域福祉社会の創造	B	B	今後も継続して実施する施策
健康づくりの推進	B	B	
子育て支援の推進	B	B	
消防と救急体制の充実	B	B	
知・徳・体のバランスが取れた教育の充実	B	B	
家庭、地域、学校の機能強化と開かれた学校づくり	B	B	
魅力ある街並み形成と住環境整備	B	B	
多文化共生と国際・国内交流の充実	C	C	事業手法や事業規模等の見直しが必要な施策
思いやりのまちづくり	C	C	
消費者の利益の保護	C	C	
環境保全のために行動するひとづくり	C	C	
文化の継承と創造と担い手の育成	C	C	
農業の活性化	C	C	
観光資源の発掘	C	C	
生活環境の保全	D	D	事業展開のあり方の検討が必要な施策
生涯学習社会の充実	D	D	
文化・スポーツ活動の充実	D	D	
開かれた市政の推進	D	D	